

学習指導要領		都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史への扉</p>	<p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	
<p>(2) 諸地域世界の形成</p>	<p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>[西アジアの地理的特質とオリエント文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエント文明の発達の仕組みを、西アジアの地理的特質や灌漑農業、政治権力の確立などから説明できる。 ・メソポタミアとエジプトにおける文明の発達の歴史的過程を比較し、それぞれの特徴を理解する。 <p>[イラン人の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アケメネス朝の統治について、政治体制、経済政策、異民族支配などの面から理解する。 ・ササン朝の周辺諸国との興亡を理解するとともに、イラン文明の東西への伝播について具体的事例を挙げて説明できる。

学習指導要領	都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>[地中海世界の地理的特質とギリシア・ローマ文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代地中海世界が一つの文化圏を形成した理由を地中海世界の地理的特質などから理解する。 ・ポリス社会の特徴を、代表的なポリスであるアテネとスパルタを比較して説明できる。 ・アテネ民主政の特徴を現代の民主政と比較して説明できるとともに、ポリス社会衰退の原因を説明できる。 ・ギリシア文化とヘレニズム文化の特徴について具体的事例を挙げて説明できる。 ・ローマ法が市民法から万民法に発展する過程について、市民権の拡大という観点から理解する。 ・キリスト教の国教化、教義統一の過程、ローマ帝国の統治理念の形成について理解する。 <p>[南アジアの地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南インドの複雑な民族構成が歴史的経緯の中で生まれてきたことを理解する。 <p>[インダス文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インダス文明がインド文明の源流をなすと考えられている理由を具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アショーカ王とカニシカ王の事績、ガンダーラ様式とグプタ様式の相違、インド古典文化がイスラーム世界に与えた影響などについて具体的事例を挙げて説明できる。 ・ヒンドゥー教がインド社会に定着していった歴史的背景を説明できる。 ・仏教成立の社会的背景や南アジアで仏教が衰退していった歴史的過程を理解する。 <p>[東南アジアの地理的特質と国家形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海路を利用した交易活動が盛んに行われていたことを、具体的な事例を挙げて説明できる。 ・東南アジア世界における南アジア文明や中華文明の受容の様子を具体的な事例を挙げて説明できる。

学習指導要領	都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界</p> <p>東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界</p> <p>主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p>	<p>[東アジア世界の地理的特質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方民族による農耕地帯への侵入が、東アジアの国家と民族の動きに影響を与えていくことを理解する。 <p>[中華文明の起源と秦・漢帝国]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殷と周の支配体制の特徴を比較して説明できる。 ・春秋戦国時代の社会変動の様子を具体的な事例を挙げて説明できる。 ・秦と漢の統治政策を比較して、その相違を理解するとともに、東アジアに冊封体制が形成された意味を理解する。 <p>[内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊牧国家の興亡を遊牧民の活動単位から説明できる。 ・匈奴の勢力の推移について、高祖と武帝の政策の違いから説明できる。 ・張騫の派遣をきっかけに、オアシスの道が形成され、西方世界との交易路として発展していくことを理解する。 ・江南地方の開発の歴史的な意義を説明できる。 <p>[唐帝国と東アジア諸民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐末の混乱の中で、唐の諸制度の変化について理解する。 ・東アジア文化圏を構成する諸地域の共通性と独自性を、具体的な事例を挙げて説明できる。 ・日本が遣隋使・遣唐使を派遣し、強固な国家体制の整備を進めるため、隋・唐帝国の政治制度を取り入れたことを説明できる。

学習指導要領		都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>(3) 諸地域世界の結合と変容</p>	<p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p>	<p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> 6世紀後半以降のアラビア半島の経済的重要性を周辺情勢から説明できる。 アッバース朝が「イスラーム帝国」と呼ばれる理由をウマイヤ朝との比較から理解する。 イスラーム世界の中心がバグダードからカイロに移った背景について理解する。 <p>[トルコ系民族の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> セルジューク朝以降、西アジアにイクター制が広く試行された背景を理解する。 <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ムスリム商人の活動について、通商ルートを明示しながら具体的に説明できる。 <p>[イスラーム文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ギリシア語文献のアラビア語翻訳という、学術・文芸の流れについて理解する。 <p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ビザンツ帝国の統治体制の特徴を西ヨーロッパ世界との比較から理解するとともに、軍管区制とプロノイア制が導入された背景を理解する。 東ヨーロッパにおいて、ポーランドからモスクワ大公国に覇権が移っていく歴史的過程を理解する。 <p>[西ヨーロッパの封建社会の成立と変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> フランク王国とローマ=カトリック教会の提携の歴史的意義を理解するとともに、地中海世界が西ヨーロッパ世界・東ヨーロッパ世界・イスラーム世界に分立していく歴史的過程を理解する。 イスラーム勢力・マジャール人・ノルマン人の活動が封建社会の形成に与えた影響を理解する。 貨幣経済の浸透が封建社会の変容と国王による中央集権化に与えた影響について理解する。 教皇権の隆盛と衰退の過程について具体的事例を挙げて説明できる。 <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ギリシア語文献やアラビア語文献がラテン語に翻訳され12世紀ルネサンスに発展したことを説明できる。

学習指導要領	都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p> <p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p>	<p>[内陸アジア諸民族と宋の抗争]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タラス河畔の戦いの歴史的意義について説明できる。 ・これまでの北方民族と比較して、契丹や女真が民族としての独自性を維持できた理由を理解する。 ・唐末・五代・宋の転換期における社会の変動と支配者層の交替について理解する。 ・宋代に発達した都市の特徴を唐代までの都市と比較して理解する。 ・宋学が成立した社会的背景と国際情勢を理解する。 ・朱子学が儒学の正統となり、朝鮮・日本で官学化されたことを理解する。 <p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル軍の強力な軍事力の基盤となった部族制について理解する。 ・元の通貨制度の特徴とそれが元の衰退の原因となった理由について理解する。 ・モンゴル時代の東西交流について、具体的な人物や文化を挙げて説明できる。 ・モンゴルの勢力拡大が日本・東南アジアの再編に与えた影響を理解する。

学習指導要領		都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>(4) 地球世界の到来</p>	<p>アジアの反映とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本</p> <p>西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界</p> <p>ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p>	<p>[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティムール朝におけるトルコ=イスラーム文化の繁栄の背景を理解する。 ・「ゆるやかな専制」を可能としたオスマン帝国の多民族国家統治の特色を理解する。 ・インドにおける新宗教の成立の背景と影響を理解する。 ・銀を媒介とした交易の拡大について理解する。 <p>[明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際商業の活発化が明の商工業や社会に与えた影響について理解する。 ・明末清初のイエズス会宣教師の来航が中国に与えた影響と中国文化がヨーロッパ文化に与えた影響について、具体的事例を挙げて説明できる。 <p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスの近代的側面と中世的な側面について理解する。 ・カルヴァンの教えが商工業者に受け入れられた理由とその後の社会の進展に与えた影響を理解する。 ・ハプスブルク家とフランス王家の対立を軸に、ヨーロッパ主権国家体制の形成と展開を理解する。 <p>[世界各地への進出と大西洋世界の形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業革命の結果、ヨーロッパにおける東西の分業体制が形成されたことを理解する。 ・英仏の植民地争奪戦をヨーロッパにおける戦争と関連付けて理解する。 ・大西洋世界に形成された大陸間分業体制が西ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ各地域に与えた影響について理解する。 <p>[17～18世紀のヨーロッパ文化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代合理主義の思想や学問がその後の社会に与えた影響を理解する。

学習指導要領	都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>ウ 産業社会と国民国家の形成</p> <p>産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p>	<p>[産業革命]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各国の産業革命の様子と産業革命がもたらした世界的変化について理解する。 <p>[フランス革命、アメリカ諸国の独立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立戦争の社会革命としての側面や、その後のフランス革命やラテンアメリカ諸国の独立に与えた影響を理解する。 ・フランス革命が急進化していった社会背景を理解する。 ・ナポレオンの政権獲得とブルジョワジーの利害との関係や、ナポレオンの征服活動と各国のナショナリズムの勃興との関係を理解する。 ・ラテンアメリカ諸国の独立がヨーロッパのウィーン体制に与えた影響を理解する。 <p>[19 世紀のヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン体制下においてイギリスとロシアが果たした役割と影響について理解する。 ・1848 年の革命の限界点や、東西ヨーロッパでの内容の違い等について理解する。 ・クリミア戦争の世界史的意義を理解する。 ・イタリアとドイツの統一の背景となったヨーロッパの国際情勢の変化について理解する。 ・アメリカ合衆国における民主主義の発展の影にあったインディアンや黒人、移民の問題を理解する。
<p>エ 世界市場の形成と日本</p> <p>世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19 世紀のアジアの特質とその中での日本の位置付けを理解させる。</p>	<p>[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸国がヨーロッパ勢力の進出の中で、経済・社会の変容を迫られたことを具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン＝イスラーム主義が唱えられ、全世界のムスリムが政治的に結束しようとしたことを理解する。 ・オスマン帝国の西欧化改革が外国資本への従属につながった要因を理解する。 ・イギリスによるインド支配の特徴やイギリスが用いた土地政策とインドの村落社会の解体の関係について理解する。

学習指導要領		都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>(5) 地球世界の到来</p>	<p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイが独立を維持できた背景を国際情勢との関連で理解する。 ・中国の伝統的な中華思想がイギリスの自由貿易の実現の妨げになっていったことを具体的な事例を挙げて説明できる。 ・太平天国が勢力を拡大した社会的背景について理解する。 ・洋務運動と明治維新を比較し、その相違を理解する。 ・日清戦争の結果が、その後の東アジア世界に与えた影響を理解する。
	<p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>[科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次産業革命の進展が、各欧米諸国間の帝国主義的対立を生んだ経緯を、1870年代の大不況を含めて説明できる。 ・欧米諸国で国民意識が醸成されていった背景に、公教育と軍隊組織の整備があったことを理解する。 <p>[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義列強の対立が激化する中で、イギリスとドイツを中心とする二つの陣営からなる国際対立が形成されていったことを理解する。 ・アジア・アフリカで起こったナショナリズムの運動と近代化を目指した運動の限界について理解する。 ・日露戦争の世界史的意義を帝国主義列強間の対立と、アジア・アフリカ諸国の民族運動への影響という視点から理解する。 <p>[国際的な移民の増加]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加する移民とそれともなつて各地で起こつた移民差別の問題について理解する。

学習指導要領	都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現</p> <p>総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20 世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>[第一次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦の結果もたらされた政治・経済・国際関係の在り方についての変化を理解する。 <p>[ロシア革命とソヴィエト連邦の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロシア革命における各勢力の政策の違いや二月革命と十月革命の性格の違いを理解する。 <p>[大衆社会の出現とファシズム]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドーズ案成立後の資本の国際循環について理解する。 ・ 1920 年代のアメリカ合衆国で見られた保守的な傾向について、具体的な事例を挙げて説明できる。 ・ イタリアでファシズムが大衆的支持を受けるに至った背景をヴェルサイユ体制や当時の経済情勢から理解する。 ・ スターリンの独裁体制が進む過程でコミンテルンの性格が変化していったことを理解する。 <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大衆的基盤をもつ民族運動の中で、第二次世界大戦後の各国の指導者が台頭してきたことを具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[世界恐慌とその後の世界情勢]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各国がブロック経済政策を進めるに至った背景と、ブロック経済政策が世界情勢に与えた影響について理解する。 ・ 日本の軍部の台頭、イタリア・ドイツのファシズム諸国の動きを、世界恐慌の影響と関連付けて理解する。 ・ スターリンの個人崇拜が進められていった社会背景について理解する。 <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独ソ不可侵条約と日ソ中立条約が第二次世界大戦にもたらした意味を理解する。 ・ 1941 年の独ソ戦と太平洋戦争の開始が第二次世界大戦に世界戦争としての性格をもたらしたことを理解する。 ・ 第二次世界大戦の複合的な性格について理解する。

学習指導要領	都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>ウ 米ソ冷戦と第三世界</p> <p>米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p>	<p>[米ソ両陣営による冷戦の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツと日本の戦後処理の違いについて理解する。 ・冷戦の構造が政治体制とイデオロギーの対立であることと冷戦状態が継続した背景に核の抑止力が働いていたことを理解する。 ・冷戦体制の激化がアメリカ合衆国の対日占領政策に与えた影響や日本が西側陣営に組み込まれていく過程を理解する。 <p>[戦後の復興と経済発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランスとドイツの歴史的和解が西ヨーロッパ統合の推進力になったことを、歴史的な経緯を踏まえて理解する。 ・国際社会への復帰を果たした日本の課題を説明できる。 <p>[アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中東戦争の経過を第一次世界大戦時の秘密外交から理解する。 ・第三世界の台頭が国際情勢に与えた影響を具体的な事例を挙げて説明できる。 ・アフリカの新興独立国で、部族対立がくりかえされ、軍事独裁体制が登場したりする背景を理解する。 <p>[平和共存の模索]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民権運動やヴェトナム反戦運動がアメリカ合衆国の社会に与えた影響を理解する。 ・米ソ両国の自陣営における相対的な地位の低下を具体的な事例を挙げて説明できる。
<p>エ グローバル化した世界と日本</p> <p>市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p>	<p>[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進国首脳会議の開催が国際経済体制にもつ意味を理解する。新興工業地域の発展が進む中で、途上国の中にも経済格差が生まれていったことを理解する。 <p>[冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア社会主義国の経済の自由化の進展が、政治的混迷や新たな社会問題を生んだことを理解する。 ・ソヴィエト連邦でペレストロイカが推進されて背景を理解する。 ・東欧社会主義圏の消滅、ソヴィエト連邦の解体がもつ世界史的意味を説明できる。

学習指導要領	都立墨田川高校 学カスタンダード
<p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題</p> <p>地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>[地域統合の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WTO に期待されている役割と、世界経済の多文化に対応するための新たな動きを具体的な事例を挙げて説明できる。 <p>[地球的諸課題をめぐる問題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連合の平和維持活動の展開と課題について具体的事例を挙げて説明できる。 ・「多文化主義」の考え方が、様々な集団間の共存を求める動きに影響を与えていることを理解する。 ・環境や資源・エネルギー問題について、歴史的観点から具体的事例を挙げて説明できる。